

平成28年度自己評価表

鳥取県立岩美高等学校

様式2

中長期目標 (学校ビジョン)	岩美高生としての誇りと自覚を持ち、何事にも「誠実」に対応でき、他者と「協働」して物事に取り組み、夢に向かって「果敢」に挑戦する人間を育成する。	今年度の 重点目標	1 キャリア教育を推進し、自らの将来について主体的に考える力を養う。 2 部活動を振興し、健康で心身のバランスのとれた人間の育成に努める。 3 多様な生徒に対して、一人ひとりが大切にされていると実感させる。 4 生徒の主体的な学びに喜びを見出し、解決する力、伝える力を身につけさせる。 5 地域と連携した学校づくりに向けて、一層の充実に努める。
---------------------------	---	----------------------	--

年 度 当 初				評 価 結 果 (10)月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
充1 実進 路指 導の	○進路実現のための系統的な指導方法の充実	○進路実現100%を裏打する安定した指導方法が確立・定着しつつある。 ○多様な進路希望の中で第1志望を実現させる果敢な指導が求められる。	○適切な時期に進路学習が行われ、進路実現に結びついている。 ○進路実現100%、2年次末までの進路希望未決定者10%以下。 ○第1志望への進路希望を実現している。	○進路面談や進路セミナーなどの進路学習を学年団との連携により強化し、3年間を見通した系統的な指導方法へ深化させる。 ○個別面談の充実と1クラス複数体制の確立。 ○進学希望者への指導内容を研究し、指導体制をつくる。	約7割以上の生徒・保護者が本校の進路学習が役立っていると感じている。また8割の教員が個人面談や複数体制による進路指導が生徒の進路選択や実現に効果を上げていると感じている。 進学対策補習の強化、地元国公立大学合格プロジェクト等の実施により第1志望の進路実現に向かっている。	C	生徒に対しては更に充実した取組を行い、保護者の意識を高める方策を工夫する。 進路実現の結果はこれからであり、就職・進学指導とも指導の意識を高めていく。
2 生徒指導の充実	○基本的な生活習慣とマナーの定着	○服装頭髪再検査者数は前年に比べやや増加傾向であり、身なりに対しての規範意識の育成が必要である。再検査者数は1クラス平均10人である。	○挨拶、返事、服装等のマナーと基本的な生活習慣が身に付いており規範意識を持っている。 ○再検査者数は1クラス平均5人以内になっている。	○全校朝会や服装頭髪検査の実施による校則の徹底指導と、全職員による日常的なきめ細やかな指導を充実させる。 ○家庭、地域との連携を密にとり、生活環境を整える。	挨拶、服装、その他校則やマナーを守ることについては、全体的には身につけていると思われるが、一部の生徒に乱れがあると感じられる。頭髪服装再検査者数は、クラス平均5人以内は達成していない。	C	教職員全体が意思疎通を図り、授業・部活動を中心として、あらゆる場面で細かな指導を継続的に行う。
	○豊かな人間関係づくりの推進	○携帯電話等による小さなトラブルが起きている。友人とのメールのやり取りで不安感等を感じる生徒も多い。	○携帯電話等に頼らず自分で考え、直接話をする事の重要性を知っている。 ○携帯電話等の使用マナーが身についている。	○生徒会主催の情報モラル研修会等の取組を充実させる。 ○岩美高生としての自覚やほこりを持てるよう学校祭その他の行事を企画する。	携帯電話等に係るトラブルにはすぐに対応し、重大な問題にはなっていないが、年々使用マナー・モラルが低下していると感じる。保護者アンケートでは「使用マナーを守って使っている」という回答が約7割にとどまっており、継続した取組が必要である。	C	生活満足度アンケートやいじめに関するアンケートの結果等も生かしながら、継続的に指導にあたる。情報モラル研修会を計画する。
	○生徒会活動の充実	○部活動全員加入は昨年度末で達成できている。部活動や執行部の活動とおとしての地域交流やボランティア活動が望まれる。	○部活動全員加入を継続し部活動をととして忍耐力や礼儀の向上につながっている。 ○生徒の自主的なボランティア活動や美化活動が行われている。	○部活動を途中で変わる生徒への指導を徹底する。 ○生徒主体のボランティア活動や美化活動を推進する。	部活動は9月時点で変更が生じた生徒がおり、全員加入に向け指導中である。アンケートでは8割を超える保護者、教職員が「部活動をととして人間的に成長している」について「そう思う」「やや思う」と答えている。	B	部活動所属先の再調査を行い、未加入者・活動が不十分な生徒を把握し、全員加入・活発な活動を徹底する。
教3 育保 の健 充・人 権	○個を大切に した教育環境の改善	○一人ひとりを理解し支援する方策が教師により様々であり、効果が十分に表れていない。	○生徒にとって学校が居心地のよい場所であり、大切にされていると実感できる。	○授業および教育環境のユニバーサルデザインを図る。	授業では、明確な指示や発問、ICT機器・タイマー・キーワードカード等の活用、わかりやすいワークシートなど、教員各自が工夫している。教室環境は、教室前面・後面掲示を統一したり、床の目印を付ける等、学習に集中しやすく、学校生活の見通しが持てるような環境づくりが進みつつある。	B	・職員会議等を利用して、授業や教育環境のUD化のポイントを再度周知し、学校全体で共通理解を高め取り組む。 ・UD化のポイントのチェックリストを作成・活用する。
4 学習指導の充実	○基礎学力の向上	○100%検定全教科の初級合格率は1年末で24%、2年末42%であった。3年末100%は達成している。 ○家庭学習時間は平日で1日平均43分、30分未満の者が57%である。家庭学習が習慣化する必要がある。	○100%検定全教科の初級合格率は1年末で40%、2年末で60%に近づけ、3年末で100%を達成する。 ○平日において1日1時間以上の家庭学習が習慣化されている。	○リサート学習・100%検定の進捗状況を検証し、内容を見直すと共に活用を促進する。 ○学年団と教科担当との連携を密にする。	100%検定は一部の教科で出題内容を改訂した。また、6月からの3年放課後補習や夏季休業中の1・2年基礎力強化補習を実施した。夏休み明けの検定で全教科の初級合格率は、3年が83%、2年が58%である。尚、1年は未判定。 家庭学習時間の平均は、平日82分、調査期間157分、また平日の30分未満の生徒は21%である。前半においては昨年の平均より増加した。	B	100%検定の合格に向けて、今後も教科と学年団で連携して補習などに取り組む。 家庭学習時間については、クラスによるばらつきが大きいことや後半に減少する傾向を改善する方策が必要である。
	○学習指導の改善	○生徒の実態を踏まえた授業の工夫がなされているが、苦手意識がぬぐいきれず一層の学ぶ意欲が求められる。	○授業をととして生徒自身が成長していることを実感し、学ぶ喜びを感じている。	○生徒が主体的・協働的に学ぶ授業の実践を促進する。 ○公開授業や研究授業月間を活用して、学習指導のあり方についての情報を共有する。	7月に協同学習のUD化職員研修会を行い、多様な生徒への適切な指導や必要な支援方法を理解し、今後11月の公開授業月間などでアクティブラーニングと合わせて授業実践を行う予定である。 7月授業アンケートにおける教科毎の学習への興味・関心がある生徒は76%、学習への努力をする生徒は87%である。	C	11月の公開授業月間では一人一回の公開授業ができるようにする。 教科の学習への興味・関心が無い生徒(24%)、努力しない生徒(13%)への指導方法の検討が必要である。
5 開かれた学校づくりの充実	○地域と連携した学校づくりの推進	○「ジバーク1,2」での学習をととして岩美町の関係者や専門家の協力を得た学習が展開できた。生徒の側からの働きかけやその他学校からの発信やPRは充実させる必要がある。	○生徒が地域と連携し貢献する活動に意欲的に取り組んでいる。 ○感謝と支え合いの心を持って、地域に貢献していこうとする精神が育っている。	○「ジバーク3」での活動において、地域連携の方策を研究する。 ○岩美高生が学校外で提言、発表等を行う機会を作る。 ○ジバークの活動を、総合的な学習の時間で引き継ぐカリキュラムを編成する。	○「ジバーク3」において地域と連携し貢献する活動を実施しているが、グループによって地域連携の深まりに差が見られる。 ○地域創造サミット（10月29日、鳥取中央育英高）に3年生の代表を参加させる予定である。 ○第2学年以下でも地域と連携し貢献する活動を推進すべく、「100%ミッション」の計画を立てた。	C	○「ジバーク3」の活動で地域連携をより深めるよう促す。 ○他にも校外での展示会や発表会に参加する機会を設ける。 ○「100%ミッション」を適切に進めていく。

評価基準 A: 十分達成 B: 概ね達成 C: 変化の兆し D: まだ不十分 E: 目標・方策の見直し
 [100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]